

令和 6 年度 旭地区 わくわく事業 実践報告書

令和 6 年度は、17の団体が、精力的な活動を展開しました！

事業名	団体名	頁
しきしまときめきプラン策定事業	しきしまときめきプラン策定委員会	1
持続可能な農村モデル事業	歴史と自然豊かな押井づくりの会	
しきしま重点プロジェクト推進事業	しきしま重点プロジェクト推進チーム	2
笹戸地区観光イベント支援事業	笹戸観光振興会	
防災アクション（安全で安心な地域づくり推進）プロジェクト事業	旭地区自主防災会連絡会	3
安否確認旗の活動	幸せの黄色いハンカチ運動の会	
地域性を活かした景観向上事業	惣田花樹の会	4
広畑さとやまプロジェクト	広畑さとやまプロジェクト	
太田町民の憩いの場づくり	太田に陽だまりプロジェクト	5
旭の木を使おまい事業	旭もくもく会	
林育推進事業	あさひ根っ子の会	6
蜂たちと豊かな森を育てる事業	あさひビーフォレストプロジェクト	
農地再生！赤そばの里事業	浅谷蕎麦倶楽部	7
旭中サンライズプロジェクト事業	旭中サンライズプロジェクト	
地域の特色を活かした魅力ある子育てのコミュニティづくり	あそびまNAVI	8
小渡地区伯母沢流打囃子伝承事業	小渡打囃子保存会 オイサーおど	
旭の和紙復活事業	旭で和紙づくり	9

【旭地域会議からのお知らせ】

より多くの方に、旭地区のわくわく事業の実施状況をお知らせするために、平成30年度から、各団体の活動状況を取りまとめた報告書を回覧しています。

1年間の活動の成果を、ぜひご覧ください！

ししまときめきプラン策定委員会

ししまときめきプラン策定事業

交付額：697,000円

【事業目的】

「ししま♡ときめきプラン2025」の策定
既存の計画（ししま♡ときめきプラン2020）の計画期間が、令和6年度で終了するため、次の10年を見据えた長期構想及び5か年の活動計画を策定する。

【事業成果】

「私と家族の将来像」アンケートや中間報告会、「誰でも公開討論会」など協議を行った。協議結果については自治区総務会と情報共有を図りながら、令和7年度以降の自治区活動指針となる「ししま♡ときめきプラン2025」をまとめた。



歴史と自然豊かな押井づくりの会

持続可能な農村モデル事業

交付額：1,000,000円

【事業目的】

地域住民と関係人口で協力して、持続可能な農村モデルを探求し、押井町内の貴重な歴史資源と周辺の豊かな自然環境を守る。

ふるさとアーカイブプロジェクト：押井町の人物・歴史・自然の取材記事、調査および記録を百科事典のようにホームページに掲載することで地域資源の魅力を見える化し、後世に残す。

オープンコモンプロジェクト：地域を開き、地域自治を減少する住民のみによる「住民自治」から関係人口とともに取り組む「関係自治」に転換することで、新しい開かれた共同体をつくることによりふるさとを守る。

【事業成果】

成果：地域資源である交流拠点普賢院の荒れた庭園の改修が進んだ。自然調査及び人物取材も終え、地域資源のアーカイブ化をさらに進めることができた。SNS利用で新規の関係人口も増えた。

課題：費用対効果を指摘されるものもあったため、事業の効果測定をどのようにするかも含めて計画を検討し、地域の理解活動も含め進めていくことが必要と考える。



ししま重点プロジェクト推進チーム

ししま重点プロジェクト 推進事業

交付額： 618,000円

【事業目的】

令和2年に策定した自治区将来ビジョン「ししま・ときめきプラン2020」に定めた3つの重点プロジェクト「支え合い社会創造」「農地保全」「未来への構造改革」を、目標年度である令和6年度までに大きく前進させ、自治先進モデルを構築する。

もって、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らせる地域社会を実現する。

【事業成果】

毎月第2日曜日にししまの家ふらっと祭開催
※8月を除く（各回200人程度参加）

成果：ししま・ときめきプラン2020重点プロジェクトは、拠点となるししまの家整備により大きく前進し、最終年度を迎えることができた。

課題：拠点の持続的運営に向けた安定財源の確保が必要。



笹戸観光振興会

笹戸地区観光イベント支援事業

交付額： 140,000円

【事業目的】

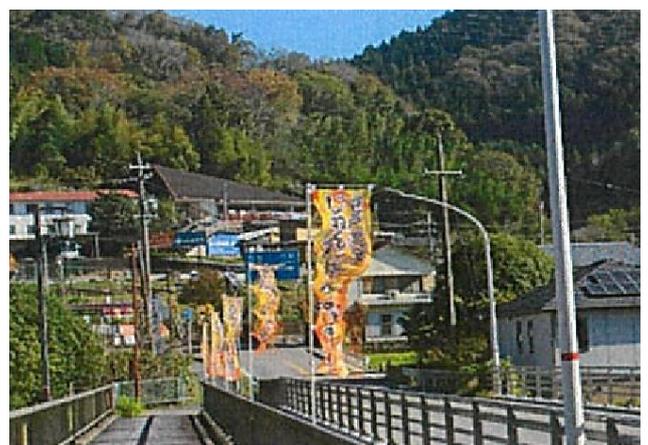
笹戸温泉街の旅館等が閉館や廃業する現状の中で、新型コロナウイルス感染拡大を経ても廃止することなく開催されている、笹戸地区内の観光イベントに対し、今後も継続して開催していくための支援をする。笹戸公園などの景色や自然薯などの食を笹戸地区の魅力として発信する機会を維持していく。

また、気持ちよく笹戸地区にお客様が訪れてもらえるように、草刈り等の環境整備も併せて行う。

【事業成果】

のぼり旗が新規購入でき、見た目にも華やかさが増し、おもてなしの気持ちの高揚につながった。

今後については、継続活動のために新規会員の確保が欠かせない課題となっている。



旭地区自主防災会連絡会

防災アクション（安全で安心な地域づくり推進）プロジェクト事業

交付額：584,000円

【事業目的】

災害につながる地域の前兆現象と危険を前もって把握するため気象情報等を活用し、地域住民自らが危険になる前に自らの災害対応に結びつける。個人や家族の備えに役に立つと共に、自分が住む地域の防災情報を入手できるようにしたり、防災行動計画の考え方と防災対応の段取りを決めることで、いざというときに慌てずに行動できるように繋げる。

また、旭地域内関係組織との連携を高め、地域密着でしかできない活動などを組織間で情報共有しながら行政など公助の限界に対応できるように地域の防災力の強化することを目的とする。

【事業成果】

雨量観測とスマホの活用：旭地区内23か所に簡易雨量計を設置し雨量観測を実施。スマホを使った情報伝達の試行運用を行った。

地域タイムライン作成の取り組み：観測された雨量情報を基にした避難行動判断を促進するため、自治区単位で地域タイムライン作成ワークショップを開催した。



幸せの黄色いハンカチ運動の会

安否確認旗の活動

交付額：123,000円

【事業目的】

隣人、町民の相互安否確認活動をする。担当者は特に一人暮らしの高齢者の旗の出し入れを確認し、異状の早期発見に努める。

活動を通じて、犯罪の抑止になる、町民の「助け合い」「連帯」意識が高まる、気力・体力の低下、病気、認知症などの早期発見ができるなどの効果を期待している。

【事業成果】

年間を通じて、特に高齢者を対象とする安否確認活動をし、月1回報告書を提出した。報告書は事業開始以来303通（令和6年12月現在）となった。

また、旗の運用方法についての説明や、旗、ポール等の交換活動、看板周りの草刈り、維持管理を実施した。

見守り活動の継続が今後の課題。



惣田花樹の会

地域性を活かした景観向上事業

交付額：160,000円

【事業目的】

地域の高齢者と有志で集落の景観向上に取り組んでいたが、放任場所が目立つ場所がある為、さらに、ボランティア団体も協力して景観向上に取り組み魅力あるまちづくりを実現する。

【事業成果】

5月から10月にかけて、雑草地の整備、植栽地の草刈り、山林の下刈りなどを実施。11月に草花の植栽作業を行った。猛暑と冬の雪が影響したが当初に想定した活動計画の8割程度は活動できた。



広畑さとやまプロジェクト

広畑さとやまプロジェクト

交付額：1,000,000円

【事業目的】

高齢化や人口減、生活スタイルの変化から山の手入れが行き届かなくなっており、付近の景観や日当たりも悪くなっている。さらには土砂崩れ等災害にもつながる。そこで、間伐や伐採をし、景観や日当たりをよくするとともに身近な山を公園等整備することで山を守る必要性を住民に理解してほしい。伐採した付近を公園として整備することで日当たりもよくなり、近くを流れる介木川や民家を明るく、より過ごしやすい町にしたい。

【事業成果】

伐採の範囲を広げたことで、日の当たる時間が早くなるとともに周りが明るくなったと感じられた。わくわく事業の申請は終了するが、今後も観光等に利用するため整備を継続していく。周辺地区でも整備が行われているので、連携して新たなイベントを企画したい。



太田に陽だまりプロジェクト

太田町民の憩いの場づくり

交付額：138,000円

【事業目的】

太田町のみんなが集う場といえば太田区民館であり、すぐ上の伊雑神社であるが、まわりは放置された人工林と野放しの竹林そして雑木ばかりである。その中でも特に区民館の前に位置する山の景観はみんなの目につく所であり、以前より話題になっていた。そこで今回、区民館前の山の雑木、竹林の伐採と人工林の間伐をしながら自然散策道を造成し、隣接する農村公園の活用も含め、太田町住民の憩いの場（散策を通して健康増進や住民同士の交流など）として、また、将来的には街の人たちとの交流の場になるようなイベントを企画し、利活用していきたい。

【事業成果】

昨年度から継続した伐採活動により、更に明るくなった公園と山。尾根までの竹林伐採から横に伐採範囲を拡張するも、安易に伐れない支障木に阻まれ思うように伐採が進められなかった。

また、散策道も伐採後の山すその傾斜がきつく、ルート変更を余儀なくされる状況にある。



旭もくもく会

旭の木を使おまい事業

交付額：452,000円

【事業目的】

旭地区にある豊富な森林資源及び人的資源を活用し、旭産木材による木質化を推進することで特有の街並み景観を作り、観光拠点として地域活性と森林の循環的維持によるSDGsの目標に貢献する。

【事業成果】

大学生ボランティアにより木質化箇所の保守を行い、環境整備ができた。

また、観光地にベンチを設置したことで来場者にも喜んでいただけたと思う。

より多くのベンチを設置たいと思っているが、維持及び保守の方法を検討したい。



あさひ根っ子の会

林育推進事業

交付額： 395,000円

【事業目的】

旭地区は面積のおよそ80%が森林で覆われているが山は放置林が多くなり子ども達が山に入って遊んだり川で遊ぶ姿も見ることがなくなった。

そこで、杉本こども園の園児、小渡と敷島の両小学校の児童、旭中学校の生徒を対象に年間の保育計画、授業計画の中で体験学習を盛り込んだ林育活動の機会を用意し、森のもつ豊かさに触れ味わう機会を創出する。また、地域住民に森林再生と森林資源活用の必要性を啓発する活動を行う。

【事業成果】

こども園の園児及び小中学生に対して体験講座を実施（16回）した。また、林育推進に向けてポスターと標語を募集し、各自治区や公共施設へ展示をしていたり啓発を図った。

各学年で計画された校外学習にその都度、臨機応変に対応できるあさひ根っ子の会の活動はますます重要になると思われる。



あさひビーフォレストプロジェクト

蜂たちと豊かな森を育てる事業

交付額： 299,000円

【事業目的】

地域の環境活動として、環境指標生物とされる日本みつばちを増やし、かつての里山のような森を整備することで、人の営みと自然との調和を大切にしたい、人と生き物とが安全安心で豊かに暮らせる地域をつくる。

【事業成果】

成果：旭地区における日本ミツバチ養蜂家は着々と増えている。共同管理の巣箱ができるなど、会としての新しい動きが出てきたのが一番の成果であり、老若男女の地域のつながりができてきている。

課題：全国的に病気が広まっており、日本ミツバチ養蜂の難易度がかなり上がってしまい、巣箱に蜂が入らず養蜂を諦めるメンバーも出ている。入居割合からも自然界の日本ミツバチが減っていることが推察されるため、飼育により生き延びさせる個体を増やす必要がある。



浅谷蕎麦倶楽部

農地再生！赤そばの里事業

交付額：386,000円

【事業目的】

次の3点を事業目的にして活動する。

①遊休農地を解消し、再生する。②地域住民が一緒に取り組むことにより、地域の連携を強化する。③赤そばの里として観光名所とする。

【事業成果】

鹿よけネットを設置する予定を変更して、忌避剤散布により鹿対策を試みたが効果が上がらず、蕎麦をほとんど食べられてしまった。来年度はネットを設置し、綺麗な花を咲かせ収穫ができるように取り組む。

また、過去に収穫したそば粉を使ってそば打ち体験ができたことや先進地視察ができ地域住民間の交流の輪も広がり、結束力が増した。



旭中サンライズプロジェクト

旭中サンライズプロジェクト事業

交付額：358,000円

【事業目的】

「旭 ハラペーニョ部！」

このスローガンにした理由は、旭中とハラペーニョがなまっているということを知りやすく、短い言葉で周囲の人たちに知ってもらいたかったからである。

また、部活動のように、全員で目的（旭地区のハラペーニョを活用した体験活動により、旭の魅力やハラペーニョの課題や現状を発信していくこと）を達成するために地域の人たちと協力しながら地域課題の解決に向けて企画を実行する。

【事業成果】

市民活動センター主催の「まだ名もなきトークイベント」や「とよたまちさと未来塾+」などに参加し、旭地区内外へ広くPRができた。

商品開発では、旭のハラペーニョを使用したカレー、アイス、ジャムなどの開発を進めた。地域の方々と協力しながら活動したことで、学校の仲間だけでなく地域の方々と共働するよさを実感した。



あそびまNAVI

地域の特色を活かした
魅力ある子育てのコミュニティづくり

交付額：468,000円

【事業目的】

令和6～8年度：竹工作、薪割り、野外調理、遊具づくり、養蜂、稲作、自然の中での遊びの講座を子ども主体で行い、交流人口から関係人口そして定住へとつなげる。

※10年間行っている「あさひガキ大将養成委員会」に、みんなのしきしまプレーパークによる「地域の施設とコミュニティ、特色を活かした、魅力ある子育ての環境整備事業」、つくラッセルで行っている「くらし体験活動」を統合し、組織と事業内容を発展させて目的を達成する。

【事業成果】

茅葺屋根復元プロジェクトへの参画（茅刈り）やツリーハウスも取り上げられたドキュメンタリー放送など、地域外への魅力の露出につながられた。さらなる関係人口増加、移転者確保に結び付けたい。



小渡打囃子保存会 オイサーおど

小渡地区伯母沢流
打囃子伝承事業

交付額：421,000円

【事業目的】

伝統太鼓である小渡町の伯母沢流打囃子が次世代へ引き継がれるような体制が整備されるとともに、コロナ禍以降薄れつつある地域の絆を伝統太鼓をツールに用いて地域コミュニティの場として世代を超えた交流を行うことで、シビックプライドが醸成された地域づくりを目指す。

【事業成果】

会員以外の方にも参加いただけた他、次世代を担ってもらう小渡余興団の皆さんにも参加していただくことができた。

次年度以降も町内に周知を図り、伝統芸能を伝えていく。

また、例年以上に練習会を開催したことで、会員自身も改めて楽しさを実感したようで、当初は内向きの教本作成が目的であったが、成果をSNSで発信しようという機運が生まれた。



旭で和紙づくり

旭の和紙復活事業

交付額：189,000円

【事業目的】

愛知県で初めて和紙漉きがされたと言われる旭地区で和紙づくりの復活と次世代（こども達）に和紙漉きの継承をし、こども達に和紙をととして、やさしさ・生命の大切さ・環境の大切さ・伝統工芸の大切さを伝える。

【事業成果】

今年度中に和紙ワークショップ3回、和紙講演会2回行い、認知度が上がったと思う。次年度は小学校、中学校でのワークショップを行いたい。



令和7年度は10団体が活動

わくわく事業は、皆さんの手で直接旭地域の課題解決や活性化につながる取組を申請していただき、わくわく事業申請団体などによる相互審査により、活動が認められた場合に市から補助金が交付されます。

令和7年度わくわく事業活動団体

- **団体名：旭中サンライズプロジェクト**
(旭中サンライズプロジェクト事業)
- **団体名：浅谷蕎麦倶楽部**
(農地再生！赤そばの里事業)
- **団体名：あそびまNAVI**
(地域の特色を活かした魅力ある子育て環境・コミュニティづくり)
- **団体名：しきしまの家**
(しきしまの家活動推進事業)
- **団体名：あさひ根っ子の会**
(林育推進事業)
- **団体名：惣田花樹の会**
(地域性を活かした景観向上事業)
- **団体名：笹戸観光振興会**
(笹戸地区観光イベント支援事業)
- **団体名：旭地区自主防災会連絡会**
(防災アクション（安全で安心な地域づくり推進）プロジェクト事業)
- **団体名：歴史と自然豊かな押井づくりの会**
(持続可能な農村モデルづくり事業)
- **団体名：あさひ対話の杜**
(対話を通して山間地域での学びをもっと豊かにする事業)

わくわく事業に興味のある方は、旭支所・地域振興担当までお問い合わせください。

● 電話 0565 (68) 2211

● Eメール

asahi-shisho@city.toyota.aichi.jp

